

人権だより

2020.11

大洲高校人権委員会



10月29日の人権・同和教育訪問で実施したホームルーム活動について、人権委員の感想を一部紹介します。1年生は「差別の現実に学ぶⅡ」身の回りの差別、2年生は「人権の歴史Ⅲ」水平社運動の展開、3年生は「同和問題の解決を目指してⅡ」結婚差別の解消に向けてをテーマに学びを深めました。



1-1

同和問題をなくすため、まずは正しい情報を知ること、知らない人には正しい情報をしっかり伝えることだと思ふ。



1-2

部落差別の解消をめざして、正しく学び、一人一人がしっかり考えていくことが大切だと思う。



1-3

断片的な見方で物事を見てはいけなかつた。コロナウイルスについても話し合い正しい知識を持った。



1-4

「差別を利用した差別」という言葉に深く考えさせられた。このことについてしっかり家でも考えていきたい。



1-5

同和問題解決の第一歩は正しく知ることだと思ふ。これからも人権問題に関心を持ち続けたい。



2-1

愛媛の水平社運動について学習し、差別を身近なものとして捉え、自分たちの立場に置き換えて考えることができた。



2-2

クラス全員に部落差別はあつてはならないという意識がさらに高まつた。クラスみんなの意見から新しい視点を見つけることもできた。



2-3

「水平」になるためには人をいたわるのではなく尊敬し合うべきだということを知り、自分の考えを見直すことにも繋がつた。



2-4

「人間の尊厳」を「人間らしさのない状態」という言葉に置き換えて考えた。自由に自分らしく生きられない状態だと大半の人が思つた。



2-5

愛媛でも水平社支部を創出し、たくさんの人が働きかけたことに心を打たれた。差別はこの先も絶対にしてはならないと実感した。



3-1

「差別を許さないつながりをつくる」。「人は必ず変わる」。「家庭から行動の第一歩を」。差別解消への第一歩を踏みだしたい。



3-2

学んだことを学んだだけで終わることがないように、差別が起つている場に直面したら、正しい意見や考え方を言える存在になりたい。



3-3

朗読劇や体験手記から結婚差別を知り、自分ならどうするか自分たちにできることは何かということ考えた。



3-4

差別は必ずなくすることができる。人間は誰にも差別心があるが、差別をなくす思いが一つであれば、チームでなくすることができる。



3-5

全員が結婚差別に対して他人事と思わずに、自分のこととして意見を出し合い、人の意見を聞いて理解が深まつた。

命の根っこにある人権

11月6日は人権講演会(コンサート)でした。演題は「命の根っこにある人権～ことほぎの心～」です。生徒の感想文の一部を切り取った文章です。本校の繁樹先生の歌とメッセージから学んだ多くのことを振り返りましょう。



- 一番心に残っているのは「最後の宿題」です。「幸せになる」とは一人一人価値観が違ったり、考え方が違ったりするので、難しいものだと考えていたけど(中略)今生きているだけで幸せなのだと思います。
- 「ことほぐ」の意味は「言葉で祝福する」というもので、(中略)人と人が支え合って命を全うすることが人の命、人生なのかなと、なんだかしっくりきました。
- 「人が作ったものは、人が消すことができる」という言葉にとっても納得しました。
- ▶ これから差別のない社会を作っていくために私たちができることは、差別がある事実としっかり向き合い、「差別と闘う人」になることだと思います。
- これから、幸せとは何だろうと考えることはたくさんあるだろうと思います。その時、講演会から学んだこと、助け合うこと、認め合うこと、今の自分の幸せと、子どもの幸せを繋げて考えていきたいです。
- ▲ 差別は人の思い込みや恐怖心、不安などから生まれるものであるため、不安を人と共有したり、分かち合ったりすることも大切だと感じた。
- 100人、人がいたら10人は自分のことを良く言ってくれる人がいる。10人の人のために自分が生きることが、どんなに素晴らしいことか築かされました。
- ▽ 「1つのことでいいから夢中で生きよう」の歌詞に感動しました。(中略)いろんなことができなくても、1つのことに夢中になれるような人になりたいと思いました。
- ◆ 人権について、命について、言葉についてもっと深く考えて、素敵な大人に成長したいと思います。
- 「自分が嫌で消えてしまいたい、全部投げ出したい。」と思った時は、一度立ち止まって休憩しよう、支えてくれる人もいるよと語りかけてくれた気持ちになり、心がすっと楽になった部分もありました。
- ▲ 7月4日に空襲があったことを初めて知りました。7月4日は私の誕生日なので、誕生日が来るたびに自分が平和に生きることができていることを感謝していきたいです。
- 病気だから、話が通じないからという理由で避けるのではなく、より深く接していきたいと感じました。
- 自分の命はいつまで続くか分からないからこそ、日々喜び、命を与えられていることを祝う気持ちを忘れずに、生き抜いてこそ、自分の人生に意味を見つけれられると思う。
- ◆ 人間は平等であることを再認識させられました。他人と自分を比べて優劣をつけたり、他人同士を比べてしまうことがあるので、絶対にしないようにしようと思う。

コラム

そうだ嬉しいんだ生きる喜び



小さい頃は、アンパンマン
マーチが好きだった

「今を生きることで、熱い心燃える」っていいなあ



目の前のことを一生懸命
ってことかなあ



それが生きる意味になる
ってこと？

今になるとわかる気がする



【アンパンマンマーチ♪】

なのために生まれてなにをして生きるのか ことえられないなんてそんなのはいやだ！
今を生きることで熱いところ燃える だから君はいくんだほほえんで
そうだうれしいんだ 生きるよろこび たとえ胸の傷がいたんでも
ああ アンパンマンやさしい君は いけ！みんなの夢まもるため

フランクという人がいます。第2次大戦中ナチスによって強制収容所に送られ、奇跡的に生還した人です。著書に「夜と霧」があります。その中で「どんなときにも人生には意味がある」「人間は人生から問いかけられている」ということも言っています。

何のために生きるのか？その答えはすでに足元に送り届けられていて、目の前のことを夢中でやってみることが大切なんだということのようです。

